

【出題意図】

食・栄養・健康に関する実態や課題について、図表から情報を読み取り、自分の意見を述べる形式を基本としています。

◆求められる力◆

- ・グラフや表などの数値データを適切に読み解く(要点に沿って具体的な数値を示す)
- ・指定された字数で話の流れを作って、時間内に記述する(指定された文字数の9割以上が目安)
- ・論理的で首尾一貫した文章を書く(問題文の指示に従い、読み取った事実の記述とそれに対する自信の考えを基本に論理展開する。また、適切な表現、言葉遣い、文章構成を意識する)
- ・適切な表題をつける

出題年度:2026年度

【模範解答】(解答のポイント)

<問1>

1. グラフから読み取れること(世帯所得および世帯構成による食料購入の格差)

内閣府「令和3年子供の生活状況調査の分析報告書」によれば、等価世帯収入が低いほど、「家族が必要とする食料を買えなかった経験がある(よくあった/ときどきあった/まれにあったの合計)」と回答した割合が高い。とくに「中央値の2分の1未満」では、37.7%が「経験あり」と回答している。また、世帯構成別にみると、ひとり親世帯はふたり親世帯より同項目の「経験あり」の割合が高く、なかでも母子家庭では32.1%であった。以上より、所得(等価世帯収入)と世帯構成(ひとり親)に関連して、食料購入の困難(経験)に格差がみられる。

2. 低所得世帯や子育て世帯への影響

家族が必要とする食料を購入できない状況は、食事量の不足だけでなく、安価で入手しやすい食品への偏り等による食事の質の低下(栄養素・食品群の偏り)を招きうる。その結果、親世代では栄養バランスの乱れ等を介して生活習慣病の発症・進行リスクが高まる可能性がある。子どもでは、発育・発達に必要なエネルギー・栄養素の確保が難しくなり、発育・発達に影響するおそれがある。さらに、こうした影響が継続すると、経済格差が健康格差として表れ、世代を超えて固定化・拡大する懸念がある。

3. 食・栄養・健康の観点から必要な対策や取り組み

- ①低所得世帯やひとり親世帯に対して、給付・減税、就労支援、子育て支援等を組み合わせ、生活のなかで食費を過度に削らずに済むよう、社会保障政策として世帯単位で支援する。
- ②夏休み等の長期休暇期に子どもの昼食が不安定になりやすい点を踏まえ、フードバンクや子ども食堂等の活動を支援し、地域単位のセーフティーネットを整備する。
- ③個別支援・地域支援の場で、管理栄養士が食料購入困難を把握するとともに、栄養支援として献立作成、食品選択、衛生管理といった食事の量と質の確保、地域資源の紹介などの普及啓発を行い、健康増進に寄与する。